02.積善の歴史

『日本最古の温泉湯宿』
300年以上もの間
人々に愛され、自然に守られてきました

群馬県重要文化財

元禄四年の誕生以来、300年以上旅人を迎え続ける「本館」。現存する日本最古の湯宿建築と言われ、群馬県の重要文化財にも指定されています。長い年月を経て、四季の自然と共に呼吸するかのような佇まいをみせております。

国登録文化財の「山荘」と「佳松亭」

その他、 昭和十一年建築、当時の和風の粋と技巧を凝らした桃山様式の「山荘」。昔から名高い美しい松林の中に昭和六十一年建築された「佳松亭（かしょうてい）」それぞれに趣の異なる三つの館が歴史の浪漫を語っております。

四万温泉とともに――
積善館の由来

積善館は「関（せき）」の姓を名乗る当主によって代々受け継がれています。
しかし、祖先は源氏に仕えた「佐藤」姓の武士であったと伝えられています。
その何代目かの子孫（佐藤肥後守清忠）が、1182年（寿永元年）に源頼朝より下関（現山口県）にあった所領とともに「関」の姓を賜ったことから、現在の「関」姓を名乗りました。
その後、関家は関東に移り、何代かの変遷を経て群馬県吾妻郡中之条町大字大岩に居を構えました。
その関家から四万に分家をしたのが、1613年（慶長18年）に没した初代「関善兵衛（せき・ぜんべえ）」です。

その後、4代目か5代目の「関善兵衛」が1691年（元禄4年）に現在の場所に湯場と宿を作り（現在の積善館本館の建物で当初は2階建）、その3年後の1694年（元禄7年）に旅籠宿として開業をしました。
関家は代々この地域で名主をしている家系であり、土地の人は「関善兵衛」のことを親しみをこめて「せきぜん」と呼んでいました。

明治時代に入り、第15代の関善兵衛が中国の古い儒教の経典「易経」の中にある『積善（せきぜん）の家に余慶（よけい）あり』（善いことを積み重ねた家には、かならず良いことが起こる。）という言葉に関連させて、呼び名の「せきぜん」を『積善』と表わし、その下に旅館を表す『館』を付けて、『積善館』という名前にしました。
現在の積善館本館の玄関に掲げられている大きな木の看板の「積善館」の文字は、この第15代関善兵衛の筆によるものです。

三〇〇年以上の時を経て
温故知新

元禄4-7年（1691-1964）	旅籠を開業 江戸時代の典型的な湯治宿（二階建）
明治40-43年（1907-1910）	書院風の座敷を持つ三階を増築
昭和5年（1930）	大正ロマネスクを用いた大浴場「元禄の湯」を建築
昭和11年（1936）	本館裏山に当時の建築の粋をあつめた桃山風の山荘を建築
昭和34-54年（1959-1979）	大広間・岩風呂の新設や老朽化した建物の改築・鉄筋化
昭和61年（1986）	老松・竹林に囲まれた絶景の地に純和風の「佳松亭」を建築